

九州高校の生徒の皆さんへ

『卓然自立』の真価が問われるとき

九州産業大学付属九州高等学校

校長 武田 壽一

新型コロナウイルスの影響により緊急事態宣言が発令され、県下の学校が一斉に新学期を臨時休校によりスタートするという異例な春となりました。皆さんは毎日はいかがお過ごしでしょうか。

本来ならば新入生を迎え、学内にフレッシュな息吹と活気が満ち溢れる頃ですが、やむを得ず本校の教育活動も停止されています。学業や部活動において、不安と焦りを感じている人も多いと思います。

さらに宣言の継続により臨時休校が延長されました。心折れる思いで耐えるつらい日々の中、心身の健康維持に限界を感じる人がいるのも無理のないことでしょう。

先生方も教室やグラウンド等で直接指導できない悔しさを胸に、従来 of 学校生活をすべて補えないにしても、皆さんに強く寄り添う気持ちを抱きながら、経験から得た知恵を絞り工夫しつつ、現状可能な指導を最大限に実行しようと努めています。

先例のない緊急事態の中、このようなことを思い出しました。「夜明け前がいつも一番暗い。しかし、明けない夜はない」。危機からの出口の光は、ほのかでも確実に見えてきています。

これからの臨時休校期間は、これまで以上に自らを律し、登校開始を想定した準備期間として欲しいと思います。何よりも生活のリズムを守り、規則正しい生活を送ることを厳守して下さい。

その際、自分を絶対に甘やかさないことが大切です。フルに送る学校での生活を頭にしっかりイメージし、体力・気力を充実させ、後に振り返って自分に恥じることはない、むしろ困難の中で頑張った自分を誇れるような日々を送って欲しいと思います。プライドは克己心から生まれるものです。

不透明で先行きの見えない苦難の時にこそ、「艱難辛苦汝を玉とす（かんなんしんくなんじをたまとす）」、歯を食いしばり、気力を充実させ、自らをしっかりと律することを学ぶ契機としなければなりません。新入生には少々過酷ですが、九州高校の建学の精神・卓然自立の真価が、学内全体で今こそ試されていると言えましょう。

校歌に謳われる「理想の学園」とは、立派な建物や施設を指し示すものではなく、そこに集い学ぶ生徒の姿勢や態度によって実現されるものです。従来どおりの日常を取り戻した後、共に再び学び過ごす学園生活の中で、皆さんの元気で爽やかな姿を見る日を心から楽しみにしています。